



令和元年度 阿佐ヶ谷中学校 第4回学校運営協議会 会議録

日時 令和元年 9 月 21 日(土)

9:30～12:00

会場 阿佐ヶ谷中学校 校長室

出席者

《協議会委員》 石井 良典
岩間 功
大石 秀明
河村 正明
鈴木 政俊
武田 裕美
諸橋 記子
柳澤 正
横山 智彦
渡辺 昌輝
校長 小澤 雅人

《阿佐ヶ谷中学校事務局》
佐々木 啓之(副校長)
長谷川 祐子(嘱託事務)



鈴木 木 今日「学校の棚おろし」に関連しまして、先生との話し合いについて決めたいと思います。

小澤 澤 夏季休業を経て3週間がたちました。事故もなく2学期の良いスタートができました。

修学旅行ではアレルギーの生徒が出て、入院することになりました。宿泊先やお弁当などすべてにアレルギー対応をしていたのですが、班行動で事前に予定していた店が満員で入れず、近くのラーメン屋に行った際に、魚介のだしを使ったスープを飲んでしまったようです。その後に歩いたり動いたりしたので、息苦しいなどの症状が出たため、教員の方に連絡が入り迎えに行き病院に連れていきました。重篤な症状ではなかったのですが、大事をとって入院。翌日には退院して同じ新幹線で帰ることができました。東京に帰ってから再診を受けてもらい、エピペンを処方してもらいました。

事前に調査はしているのですが、これからは班行動にもさらに注意が必要だと思いました。

鈴木 木 アレルギー症状が出た時に、最初の連絡はどうやってしたのですか？

小澤 澤 班ごとに携帯電話(レンタル)を持っているので、連絡がありました。連絡が来てから待機させたり、迎えに行ったり病院に行くまでに時間があつたので、病院につく頃には症状は治まっていました。

柳澤 澤 すぐに連絡がとれてよかったですね。

小澤 澤 こういった時にスマホをもっているとGPSがついているので、位置がすぐに確認できる。これまでもバスで寝てしまい、そのままはぐれた。電車の乗り換えを間違えて一人で知らない駅で降りてしまった。…などという事もあります。個人でスマホを持っていると安心な事もあります。

従来通り学校が用意した携帯を持たせるか、個人持ちのスマホ使用をさせるのがベターか…。これからの課題になってくると思います。



小 澤 来年度の阿佐ヶ谷中学校学校運営について、お配りした資料をご覧ください。来年度、都内の小・中学校はオリンピック・パラリンピック観戦チケットをもらえることになり、阿佐ヶ谷中学校は味の素スタジアム(東京スタジアム)で女子の近代五種を観戦することになりました。学校に集合して観戦後学校に戻ってくる形になると思います。

近代五種は、フェンシング・馬術・水泳・射撃・ランニングを一人の選手が行います。日本ではまだ馴染みがありませんが、欧米では人気のスポーツです。女子では世界選手権 6 位の選手がいるということで、楽しみな競技です。

来年度の行事予定を組んでいるのですが、ちょうど観戦の頃阿佐ヶ谷七夕まつりや、高円寺の阿波踊りなどがありおやじの会の花火大会は 8 月 29 日になるのではないかと思います。

鈴 木 観戦となると 200 人いっぺんに動くのは難しいでしょうね。味スタだと会場も広いですね。

小 澤 クラスごとで動くことになると思います。

次に来年度の学校行事についてです。入学式・卒業式等儀式行事。体育的行事は体育大会・文化的行事は合唱コンクール。修学旅行・フレンドシップ・スキー教室等宿泊行事を例年通り行う予定です。マラソン大会については未定となっていますが、スケジュールはおさえてあります。

鈴 木 フレンドシップスクールというのは？

小 澤 1 年生の初めての校外学習です。来年度も裏磐梯に行く予定です。今年は世界のガラス館見学や五色沼自然探索・休暇村キャンプ場での飯盒炊飯の体験などをしました。残雪があるのが心配ですが、宿泊は裏磐梯レイクリゾートというとても良い施設です。クラスづくりのための行事になります。

さて、今日的な課題としてスマートフォンの利用があります。

文科省の指針として現在はスマホの学校での使用を制限しているが、オープンにしてはどうか、という事です。制限する理由を考えるより使うルールを考えることが大切ではないかと思います。

LGBT(性的マイノリティー)についても考えなくてははいけません。例えば学校の標準服についてです。本校は今の 2 年生から新しい標準服になりました。今までの男女の標準服に加え、女子の男子が着用するスカートスタイル、女子が着用するパンツスタイルこの 4 つのセットを初めから用意する学校もでてきている。業者に聞いたところ、対応は可能とのことでした。

標準服は高価だという意見もあります。しかし標準服を着ていると、子どもの安全確認をする方法にもなる。標準服は購入時、確かに高いですが、3 年間使えるとしたら割安になると思います。

- 小 澤 次に新たなタイプの学校への対応という事についてですが、今フリースクールは認可されているが、文科省の認可を受けていない学校、インターナショナルスクールや朝鮮学校などに通って、阿佐ヶ谷中学校の資卒業格を受けたいという希望者が増えていくかもしれません。これからの学校の在り方として考えていかななくてはなりません。
- 鈴 木 ウェブ上の中学を作った場合そこを卒業したら阿佐ヶ谷中学校卒業という事になるのですか？
- 小 澤 通信制などでの教育を”学ぶこと”と認定するのか…ということになるのですが、教育要領やカリキュラムを満たしていれば、今は文科省も東京都も認定しています。千代田区では通信制の中学校をつくっています。国でも通信制のものを考えているようです。それを決めるときに基準がバラバラではいけないと思う。
- 大 石 知り合いが通信制の学校に通っていて、地域の活動には参加しています。
- 鈴 木 ウェブの中学校なら不登校対策としては、学校に通いたくても通えないという子どもの課題をクリアすることができますね。
- 渡 辺 行事が多くて先生の手が足りないという事も解消されるのかもしれませんが。
- 小 澤 AI が進んでいくと、学校の先生がウェブで授業を配信する時代がやってくるかもしれません。CS もこれらを踏まえて、これからの教育課程の変遷を考えていくようになると思います。今のままで学校を存続すればよいのではなく、5年先の学校を考えていく。学校というものを根底から変えていく必要があるかもしれません。
- 鈴 木 夜間学校というのがありますが。
- 小 澤 夜間学校はかつて戦後の混乱期に学校教育を受けられなかった人たちのものでしたが、今は別のものになってきています。杉並区で作ることもできます。
- 鈴 木 夜間学校のウェブ版ということになりますか。そこを卒業すれば阿佐ヶ谷中学校を卒業できる…。
- 小 澤 そうです。今ある「さざんか教室」をウェブ上でしたらどうかという考えもあります。今すぐにではありませんが、今後色々な意見がでてくるでしょう。
- 大 石 勉強には意欲的で都立高校をめざしているが不登校という子もいますが、前向きな子どもたちを応援してあげたいですね。
- 小 澤 日赤や府中病院で院内の分校を作ったことはあります。
- 岩 間 区内ではそういうお子さんは必ずいますよね。区で対応してもらうのが効率的ではないですか。
- 小 澤 院内病院では長期入院の場合、その病院の近くの学校に転学するということになります。都からの人員は派遣されないので、区が採用することになります。

石 井 特別支援と不登校は別なんです。さざんか教室に通って所属している中学を卒業するということになります。さざんか教室はあくまでも学校復帰を目指すものです。不登校の生徒が通う学校ではないのです。教員ではなく、相談員ということになります。

小 澤 違う所に行ってしまった生徒という意識をもたせないように、さざんか教室とつながっていきましょう。ということで、学校の先生方と常にコンタクトをとっています。

石 井 学校で学ぶという事はどういうことなのか。学んだという事を認定する所なのか…。

小 澤 「学校に通う」ことが前提なのか、「学ぶ」というのが大事なのか…。

大 石 人と人が接することがない、というのが問題ですね。通信制が良いものかどうか…。考えることが多いですね。

小 澤 通信制の高校への希望者も増えてきています。学校のとらえ方が変わってきています。それが今中学校にシフトしているのです。

柳 澤 私は考え方が古いのかもかもしれないが、学校で学ばずに通信制やウェブで学ぶというのはどうなんだろうと思ってしまいます。それでは道德教育なんていらんんじゃないかと…。

大 石 発達障害ではなく、社会性が低いだけの人も多いですから。

小 澤 隣の席に座っていても SNS で会話する時代になってきましたね。

柳 澤 国がもっと「それはおかしい」という事を言ってほしい。

渡 辺 その世代ではない人から見ると不自然なことがあるかもしれません。生活環境も含め先の事を考える必要もあると思います。

小 澤 SNS がなくてもできるもの。サッカーの試合や陸上競技、その瞬間しか体験できないものを学校で教えていきたいです。ウェブではできない、人間として、学校としてやって行くものをこれから考えていかなくってはなりません。

そのためにも広い視野で見ていく必要があります。

渡 辺 アナログ=いらぬもの、ではなく色々選べる手段として必要だと思います。

石 井 行事などで人と人が関わる事の大切さを教えていく。例えば災害があった時に避難所で隣の人と話ができるか…。学校の意義がそこにある。勉強だけでは良いというものではない。

小 澤 教科の学習は色々な機器を使えばいろいろな勉強ができるが、物をつくったり実験したりという活動ではどうしても人と人とのかかわりが出てくる。「当たり前のことをきちんとやろう」という事を教えていきたい。その上で「学校の当たり前」を見直していきたいと思っています。